

早くからこつこつ貯金

幼稚園から高校3年までの15年間の学習費 (図1)

表の見方
かかる費用 → 「学校教育費」+「学校給食費」
かける費用 → 「学校外活動費」
総額の概算

【単位は万円】

		学習費総額				合計
		幼稚園	小学校	中学校	高校	
公立	すべて公立					229.9 344.5 574.4
	幼稚園だけ私立					257.4 362.2 619.6
	高校だけ私立					360.6 375.1 735.7
	幼稚園および高校が私立					388.1 392.8 780.9
	小学校だけ公立					657.0 392.7 1049.7
	すべて私立					1196.8 641.7 1838.5
私立	公立	22.3 25.0 47.3	63.1 148.1 211.2	51.1 110.5 161.6	93.4 60.9 154.3	
	私立	49.8 42.7 92.5	602.9 397.0 999.9	320.0 110.3 430.3	224.2 91.4 315.6	

※2021年度「子供の学習費調査」より執筆者作成。端数処理により合計には差異あり

大学費用の目安 (図2)

【単位は万円】

	入学料	授業料	施設設備費	初年度合計	全学年合計	
国立大 (4年制)	28.2	53.6	—	81.8	242.5	
私立大	文系 (4年制)	22.6	81.5	14.8	118.9	407.9
	理系 (4年制)	25.1	113.6	17.9	156.6	551.2
	医歯系 (6年制)	107.6	288.3	93.1	489.1	2396.2
私立短期大 (2年制)	23.8	72.3	16.7	112.8	201.8	

※国立大は文部科学省の標準額。私立大は2021年度「私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額(定員1人当たり)の調査結果について」より執筆者作成。全学年合計は「入学料+(授業料+施設設備費)×学年数」で試算したもの

⑰ いったいいくらかかる？ 子どもの教育費



目指せ！
お金の達人

子どもにかかる教育費は千万円とも2千万円とも言われますが実際どうなのでしょう。昨年末に文部科学省から2021年度の「子供の学習費調査」が3年ぶりに公表されました。調査項目に変更があったため過去のデータと単純比較はできませんが、上昇傾向にあるようです。幼稚園から高校卒業までの学習費総額(図1)を確認し、併せて大学進学費用

の目安(図2)も見てみましょう。
Q 学習費の内訳は？
A 学習費は①学校教育費②学校給食費③学校外活動費の3つで構成されます。学校に支払う①と②は教育に「かかる費用」であり、③は習い事や学習塾代・家庭教師代など各家庭の方針で差が出る「かかる費用」となります。

ポイントは、子どもの進路と、③にいくらかけるかによって大きく変わるということです。図1のケース1とケース6の総額の差は約3・2倍となります。親としては子どもにできるだけのことをしたくなりますが、先々を見通し③にお金をかけすぎないことも大切です。高校卒業までの教育費は、毎月の家計の中でやりくりするのが理想。総額で見るとびっ

くりするような金額ですが、月いくら必要かで考えていきましょう。
Q 大学進学費用は？
A 21年度の学校基本調査によると、大学進学率は54・9%で、前年を上回り過去最高となりました。進学先ごとに「かかる費用」の目安を(図2)にまとめました。国立大は学部を問わずほぼ一律ですが、私立大は大学や学部により大きく違います。
 また、高校までとは異なり、大学では約74%の学生が私立に通っています。そのため準備費用としては私立大の費用を見込むと安心でしょう。志望大が決まったらホームページや募集要項などで確認することが

めましよう。ため方としては「早くからこつこつ」が鉄則。幼稚園・小学校時代の「ため時」を逃さないようにしたいところです。所得制限はありますが、0・15歳までの児童手当を全てためると約200万円、それとは別に月1万円を18歳までためると約200万円、合わせると約400万円となり、私立大文系の費用相当額を確保できる計算になります。
 また、幼児教育・保育の無償化や高校の授業料無償化で還元された金額を、別で積み立てていくこともお勧めです。貯蓄の他、24年から拡充・恒久化される新しいNISA制度も活用し、子どもが本当にやりたいことを見つけたときに応援できる体制が取れるようにしておきたいですね。

(ファイナンシャルプランナー)